

佳作

大好きなお母さん

愛媛県
西条市立周布小学校 四年

首藤 央樹

ぼくのお母さんは、きびしいけどやさしいところがあります。ぼくがじゃらけたり、約束を守らなかった時や、人にいじわるをした時は、とてもきびしくしんけんにおこります。そんな時ぼくはなみだが出て、もうぜったいしてはいけないと思います。でも、ぼくがつらくて泣いている時やこまっている時には、同じ目線になってぼくの話をよく聞いてなぐさめてくれます。するとぼくはふしぎとゆう気ができてきて、またがんばろうと思います。

ぼくは、お母さんの体で好きな所が二つあります。一つ目は、にのうです。マシユマロのようにやわらかく、さわりごこちは百点まん点です。リビングでいっしょにテレビを見ている時も、ぼくはいつの間にかお母さんのにのうでをさわっています。するとお母さんは、

「さわられん。太くなつてしまいうやろ。」

と笑いながら少しおこっています。ぼくが、ニヒツと笑ってごまかすと、お母さんも笑いだして二人で大笑いをします。

二つ目は、おなかです。お母さんのおなかはポニヨポニヨしていて、まるで風船のようです。ぼくが、

「どうしてお母さんのおなかはそんなに大きいのか？」

と聞くと、お母さんは、

「このおなかで三人がおおきくなつたんよ。特にヒロは一番大きかつたんよ。」

とおなかをたたきながら答えてくれます。そんなお母さんはまるでタヌキのようだけど、ぼくは、大好きです。

ぼくのお母さんはお仕事をしています。そのため、ぼくが学校から帰ってもいないのがとてもさびしいです。だから時々お母さんのけいたい電話に電話をして、お母さんの声を聞きます。すると、安心して心が落ち着き、宿題をすることが出来ます。お母さんが仕事から帰ってくると、お母さんのもとにかけつけて、にのうでやおなかをさわつて、ぼくのお母さんだあとかくにんをします。

お母さんは、仕事から帰ってきてから、ばんごはんを作りながら、宿題を見てくださいたり、ぼくたち三人のれんらくプリントをかくにんしてくれれます。ぼくたちがねてからも、せんたくをしたり、明日の用意をしています、でも、朝は早く起きて、ぼくたちよりずっと元気です。ぼくはこんなお母さんの子どもでもよかつたと思います。いつもぼくたちのために働いてくれたり、家事をしてくれるので、心からありがたく思います。

最後にぼくのお願いは、これからもお母さんにはダイエツトなどをしないでマシユマロのようなにのうでと、風船のようなおなかでいてほしいと思っています。そして、いつまでも元気なお母さんでいてほしいです。